

特許出願公告及び特許拔萃

特許公告拔萃

心棒を有する管壓延機の心棒案内用の案内部材 (14年特許公告第2,743號, 公告14-6-17, 獨逸國, マンネスマンレーレン, ウエルケ) 従來の轉子溝の變化に應じて多數の案内部材を夫々取換へたる煩雜なる手数を省き極めて簡単に轉子溝に應當する案内部材を容易に準備し得べからしめんとする目的を以て多數の案内子列より成り該案内子列は回轉體の圓筒の如く管を壓延する方向に直角なる軸上を回轉すべく設けられ且つ各別に大き即ち直徑を異にする密接せる案内子が設けられ各別の列の案内子大きは一列の案内子の中央面が他列の案内子の中央面を互に喰ひ違にある様異なるを特徴とする心棒桿を備へたる管壓延機の桿案内部材。

アルミニウム又は其合金の防蝕處理法 (14年特許公告第2,760號, 公告14-6-17, 東京市, 株式會社日本製鋼所) 右金屬又は合金の表面に防蝕力強き酸化被膜を容易に生成し得しめんとする目的を以て修酸, ロッシェル鹽及硼酸の混合水溶液を電解液として使用することを特徴とし Al 又は其の合金を電極として直流又は交流を單獨に通して電解處理を行ふことより成る Al 又は其の合金の防蝕方法。

金屬被覆方法 (14年特許公告第2,761號, 公告14-6-17, 東京市, 株式會社芝浦製作所) 基地金屬面に他の金屬を簡單且經濟的に而も強固に被覆し得る金屬被覆方法を得んとする目的を以て水銀と共にアマルガムを生成し得る金屬及其の合金の面上に水銀を被覆し次に水銀と共にアマルガムを生成し得る金屬を該水銀被覆上に電鍍すべくせる方法に於て前記水銀被覆を特に電解的に沈積せしむる事を特徴とする金屬被覆方法。

熔鑄爐 (14年特許公告第2,763號, 公告14-6-17, 神奈川縣, 小川新太郎) 砂鐵の如き粉鑄石を團塊となすことなく容易經濟的に銑鐵若くは鋼を得んとする目的を以て熔鑄爐の上部と下部とに各別に空氣豫熱爐を連通して正逆に送風すべくなすと共に熔鑄爐の上部と下部とに粉鑄石の給送管を開口したる熔鑄爐。

金銀混汞裝置 (14年特許公告第2,704號, 公告14-6-17, 東京市, 杉浦六之助) 簡單なる裝置により金銀の混汞採取率を増進せしめんとする目的を以て適當なる落差を以て落下せしめたる鑄砂を水銀槽の内壁に沿ふて圓運動的に移動せしめ依つて生ずる勢力に依り水銀を攪拌接觸せしめ剩餘の鑄砂を段階方向とは反對に傾斜せる流出樋に依り多少の淀みを與へつつ次の水銀槽に落下せしめ以下同様の操作を反覆すべくなしたることを特徴とする金銀混汞裝置。

銅製鍊鍍より鐵を製造する方法 (14年特許公告第2,765號, 公告14-6-17, 愛媛縣, 田邊秀雄) 従來一般に放棄されつつある銅製鍊の廢鍍より珪素含有量少き鐵を容易且經濟的に回收せんとする目的を以て銅製鍊に於ける廢物たる鍍を電熱又はガス其他による加熱裝置を備ふる適當なる爐中に入れ溫度を上昇せしめ更に還元ガスを吹込み分離し來る銅鍍を鍍より分別したる後適當なる熔劑を加へ凡そ1,400~1,500°Cに保持しつ再び還元ガスを吹込み鍍中に含有する鐵分を還元遊離せしめて之を鍍滓より分別することを特徴とする銅製鍊鍍より鐵を製造する方法。

酸化マグネシウム含有物質より金屬マグネシウム製造法 (14年特許公告第2,766號, 公告14-6-17, 關東州, 南滿洲鐵道株式會社) 酸化マグネシウム含有物質より直接的還元を依り金屬マグ

ネシウムを製造する際反應を有效且經濟的に行はしめ以て酸化マグネシウム含有物質より廉價に金屬マグネシウムを製造せんとする目的を以てマグネサイト又はドロマイト等を適當に焙燒して得たる酸化マグネシウム含有物質に炭化石灰を混和せる密混合物を高熱還元しマグネシウムの蒸發作用に依り金屬マグネシウムを製造せしむるに當り熔融せる炭化石灰或は之に炭化石灰と共融混合物を生ずる物質例へば石灰を添加せるものを特に熔融狀態に保持し該熔融浴内に於て反應を起さしむることを特徴とする酸化マグネシウム含有物質より金屬マグネシウムを製造する方法。

金屬マグネシウムの製造法 (14年特許公告第2,767號, 公告14-6-17, 關東州, 南滿洲鐵道株式會社) 弗化マグネシウムと炭化石灰との混合物が低溫度に於て迅速に反應する性能とマグネシヤ含有鑄石より弗化マグネシウムを製する際珪酸を容易に除去し得る點とを巧に利用しマグネサイト, ドロマイト等の如きマグネシヤ含有鑄石より容易且經濟的に純度高き金屬マグネシウムを製造せんとする目的を以てマグネサイト, ドロマイト等の如きマグネシヤ含有鑄石を豫め適當溫度に煏燒し若は煏燒せずして之を弗素化合物にて處理し弗化マグネシウムとなし之に炭化石灰を緊密に混和し還元性瓦斯の存在に於て常壓若は減壓下に750°C以上の溫度に於て還元することを特徴とする金屬マグネシウムの製造法。

保護被層を有する金屬版製造方法 (14年特許公告第2,768號, 公告14-6-17, 西宮市, 津村芳三, 外1名) 建築材として公知の保護被層を有する金屬版に於て其の金屬版の接合を自動的に機械工作となし接合手數費用を省略して而も其の接合を強固緊密耐久となし且つ穿孔を通して兩面の塗層を連繫せしむることに依り保護層と金屬版との付着を完全強固とならしむべくしたる目的を以て兩金屬版の端部を重合し其の重合部分に打抜器を強入することにより多數の並列穿孔(1)を施すと同時に其穿孔(1)の周圍に切端突出爪(2)を突出せしめ之を金屬版面に平潰して壓着せしめて兩金屬版を緊密に接合し此接合金屬版の兩面にアスファルトを主材とせる塗層を施し其兩面塗層をして穿孔を通して連絡せしめてなる保護被層を有する金屬版の製造方法。

中空金屬體の延伸方法 (14年特許公告第2,831號, 公告14-6-20, 獨逸國, ドイツエ・レーンウエルケ, アクチエンゲゼルシャフト) 輾子の作働面を可及的に短小ならしめ之に鋭き角度の段階を設け被延伸中空體をして此成形段階を急速に通過せしむることに依り薄くして均一なる壁厚の長さ中空體を製造するを得べからしめんとする目的を以て傾斜壓延機の成形通路に於て傾斜輾子により先ず中空金屬體の壁の厚さを變ずることなく其直徑のみを縮小して其内側壁面を心金と接觸せしめ次いで輾子區分と心金との間に形成せられたる通路空隙の急激にして實質的なる緊縮によりて中空金屬體を著しく縦方向に延伸せしめ然る後斯く延伸せられたる管狀體を充分なる長さの並行空隙部に於て其表面を滑かならしむる傾斜壓延機に依り中空金屬體を延伸する方法。

低炭素フェロチタンの製造法 (14年特許公告第2,845號, 公告14-6-20, 東京市, 横枕留藏) 含Ti鐵鍍又は酸化チタン及鐵鑄石中のTi分及鐵分を容易完全に還元し炭素及Al等の不純物の極めて尠なき優良なる低炭素フェロチタンを製造せんとする目的を以て含Ti鐵鍍又は酸化チタン及鐵鑄石に少量の酸化劑を加へ加熱焙燒し更に灼熱し之に別に加熱せるAl粒に硝酸加里, (又は硝酸

曹達) 過酸化バリウム、過酸化曹達等の一種又は數種を加へたるものを混合點火して自熱還元せしむることを特徴とする低炭素フェロチタン製造法。

交流電氣植桿熔接方法 (14 年特許公告第 2,866 號, 公告 14-6-20, 大阪市, 大阪變壓器株式會社) 電弧發生に先ち熔接回路の短絡電流に基く被加工物の熔着を防止し且熔接桿保持器を輕少ならしめ以て取扱を容易ならしめんとする目的を以て熔接用低周波電源に高周波發生裝置に依る高周波電流を重疊せしめて成る交流電氣植桿熔接方法に於て被加工物間に高周波電壓に耐へざる低周波用絶緣片を介在せしむることを特徴とする交流電氣植桿熔接方法。

電弧熔接用被覆電極棒 (14 年特許公告第 2,867 號, 公告 14-6-20, 東京市, 株式會社日本製鋼所) 電弧の安定を容易にし電弧作用に於ける酸化窒化の害を除き且つ熔着部分の金屬を熔融中鍍滓を以て良く蔽ひ其の急冷を防ぐと共に被覆劑中より熔着部分の金屬に適量の C 及 Mn 元素を補ひ以て降伏點及抗張力大にして伸張率も亦母材と大差なき熔着金屬層を得る目的を以て軟鋼芯線の周圍に滑石 30~40%, 陶土 10~20%, Ferro-Mn 10~15%, 酸化チタン 10~15%, 酸化鐵 10~20%, 黃血鹽 2~5% 及黑鉛 3% の混合粉末を珪酸曹達の水溶液を以て糊狀に練りたるものを適當の厚さに塗布したる鐵又は鋼材の電弧熔接用電極棒。

黄金色合金 (14 年特許公告第 2,911 號, 公告 14-6-24, 兵庫縣, 茨木康之, 外 1 名) 耐酸性に富み硫黃又は硫黃化合物に侵さるることをなく伸張性大なる不變色合金を得る目的を以て Zn 16~50%, Mo 0.5~2%, W 0.2~0.5%, 鉛又は錫若くは兩者 0.5~3%, 殘餘として銅を含有せしめたる黄金色合金。

珪酸質礬土原料より純アルミナの製造法 (14 年特許公告第 2,901 號, 公告 14-6-24, 關東州, 南滿洲鐵道株式會社) 簡易なる操作により珪酸質礬土原料より Al 電解用として極めて好適なる純アルミナを廉價に製造せんとする目的を以て珪酸質礬土原料を鑛酸にて常壓又は加壓の下に處理して得たる抽出液を傾瀉法に依りて殘渣と分離したる後アルミナとして 7% 以上 (重量 100 分率) に濃縮し加壓罐に投入し 1,200°C 以上の溫度に於てアムモニア瓦斯と接觸せしめ結晶狀の人工ポーキサイトとアンモニウム鹽類溶液とに分別し前者を稀薄なる苛性アルカリ溶液にて加温抽出し純なる礬土酸アルカリ溶液を製し之より常法に依り純アルミナを製することを特徴とする珪酸質礬土原料より純アルミナの製造法。

磷酸アルミニウム鑛處理法 (14 年特許公告第 2,902 號, 公告 14-6-24, 東京市, 日東化學工業株式會社) 明礬が過飽和溶解狀態となるを免れざる高温磷酸中の明礬に過結晶の現象を起さしめ一旦之を分別し結晶が溶解することを阻止し明礬殘留量少き磷酸溶液を簡單に生ぜしめ粗製磷酸の利用上便宜ならしむると同時に溶液冷却上要せらるるエネルギーを節約し經濟的に實施せしむる目的を以て磷酸礬土鑛を公知の方法に依り流酸處理する際硫酸加里或は硫酸アンモニウムを添加し高温にて溶解し冷却により明礬を結晶せしめ磷酸を溶液として抽出する場合に明礬結晶分離を二次若くは二次以上に分ち先づ明礬を飽和し且つ含有 Al_2O_3 に對し磷酸を P_2O_5 として 40% 以上を含有せる高温磷酸溶液を 35~55°C まで冷却し明礬の過飽和狀態を破壊し結晶を急激に析出成長せしめ所謂過結晶 (Over Crystallization) の現象を起さしめ一旦明礬結晶を分別し更に母液を冷却して 20°C 以下となし殘留明礬を結晶せしめ之を分別することを特徴とする磷酸アルミニウム鑛處理法。

伸線機卷胴冷却裝置 (14 年特許公告第 2,973 號, 公告 14-6

-27, 大阪市, 關西製鋼株式會社) 簡單なる裝置に依り自動的に冷却水の循環を圓滑ならしむると共に卷胴の冷却効果を大ならしめ且水筈内の水を攪拌して常に其溫度を均一ならしめんとする目的を以て伸線機卷胴の周壁内周面に沿ふて上部開放せる水筈を形成し卷胴の内部空所内に導入せる冷却水輸送管の端部を該水筈の上方より其内部に開口せしめ水筈内周壁の下方位置に沿ふ如く受水槽を基臺に定置し輸送管よりの給水により水筈内に常に冷却水を充滿せしむると共に溢水をして受水槽を経て適宜外部に排出せしむへくしたることを特徴とする伸線機卷胴冷却裝置。

急速可鍛鑄鐵製法 (14 年特許公告第 2,982 號, 公告 14-6-27, 大阪市, 久保田權四郎) 從來の可鍛鑄鐵法にては白銑化困難なりし低炭素高珪素合金を金型急冷法により白銑化することを可能ならしめ之に依り極めて短時間例へば 1 時間内外にて 900~1,000°C に於ける軟化燒鈍による黑鉛化を完了せしめて經濟的に可鍛鑄鐵物を得んとする目的を以て C 1.5%~3.5% Si 1.0%~4% にとり C の量の増加に従ひ Si の量の減少する如く選び且其總和 4~7% 白銑の黑鉛化を妨ぐべき元素例へば Mn, S, Cr 等の總和 1% 以下殘餘鐵より成る合金を金型に注入し或はダイキャスト鑄造機械を以て鑄造し急冷しつゝ白銑素材を鑄造することを特徴とし次の此の白銑素材を 900~1,000°C に於て短時間の軟化により黑鉛化せしむることより成る急速可鍛鑄鐵製造法。

金屬製造輸送帶 (14 年特許公告第 3,020 號, 公告 14-6-30, 東京市, 松本素) 傳動車の廻轉により輸送帶上に負荷を載置輸送するに當り最も破損し易き輸送帶の緣部附近に於ける應力を緩和し以て輸送帶の耐久力を増加し併せて輸送帶緣部に於ける波狀部により載置せる負荷の滑り落ちるを防止し以て輸送能力の高上を計らんとする目的を以て無端狀に連續運轉せらるる金屬薄板にて作成せられたる輸送帶に於て該金屬薄板の兩側なる緣部附近のみを波狀となる如く加工し該波狀部は其底部下側面を中央扁平部の下側面と同一平面中に或は之より上方位置に存置せしむる如く成形して成る金屬製輸送帶。

金屬製輸送帶 (14 年特許公告第 3,021 號, 公告 14-6-30, 東京市, 松本素) 比較的短かき薄板を順次に連結して無端狀輸送帶を作成するに當り凹凸部の嵌合に因る剪斷應力の増加に依り接續部の抗張力を増加し斯くて一片より成る金屬製輸送帶と同一の抗張力及耐久力を有せしむると共に現場組立及分解を容易確實にし且其全長を適宜に加減し得べからしめたる金屬輸送帶を提供する目的を以て無端狀に連續せんとして一方の薄板に其端部に沿ふて或數の所要形狀の凹所を設け他方の薄板の端部に沿ふて上記凹所と同位置に於て該凹所の内形を外形とする凸所を設け該凸所を前記凹所に嵌入せしめ次に兩嵌合部分に穿孔し若くは此部分に既に設けられたる穿孔を通じて銜着し又は嵌合部分を熔着し順次同様操作を幾多の薄板につき繰返すことに依り構成して成る金屬製輸送帶。

鐵又は鐵合金鋼又は銅合金に錫又は鉛又は錫鉛合金を鍍金する方法 (14 年特許公告第 3,039 號, 公布 14-6-30, 尼崎市, 濱田隆一) 從來の錫又は鉛又は錫鉛合金の熔融鍍金の缺點たる氣孔等の微細なる空隙の多き鍍層をして緻密質とならしめ且鍍着の強固にして耐蝕性に富む被覆層を得んとする目的を以て亞鉛, 錫, カドミウム等の金屬の鹽化物の 1 種又は 2 種以上と酸化チタニウム (又は之に鹽化アンモニウム, 鹽化カルシウム, 炭酸曹達等の融劑を適宜に加へたるもの) 等を混合加熱熔融して成る熔融浴にて被鍍金物を陰極として電解し成分金屬を鍍着し次に鉛又は錫鉛合金の熔融せ

るものの中に浸漬鍍金することを特徴とする鐵又は鐵合金銅又は銅合金に錫又は鉛又は錫鉛合金を鍍金する方法。

硫黄製煉爐のダンパー (14年特許公告第3,048號, 公告14-6-30, 東京市, 高野喜助) ダンパーの開閉及開度の調節を容易ならしめ以て純良なる硫黄を高効率に採取せんとする目的を以て硫黄製煉爐の通氣道の中に外部に連通したる透孔を設けて之に外側より多數の眞直なる棒狀體を並挿して通氣道を遮断すべくし該棒狀體を増減することに依り通氣道の開度を調節し又は開閉すべく構成せる硫黄製煉爐のダンパー。

耐硫酸性鑄鐵 (14年特許公告第3,049號, 公告14-6-30, 兵庫縣, 片山峰一, 外一名) 特に硫酸に對し化學的抵抗大なるのみならず又衝激抵抗力にして且加工容易なる鑄鐵を得んとする目的を以て鐵に Si 20~35% Mn 5~15% Cu 2~7% の Al 0.2~0.7% Mn 0.5~0.6% 及 C 2~3% の含有量たらしめたる耐硫酸性鑄鐵。

耐火物 (14年特許公告第3,053號, 公告14-6-30, 米國, コーニング Cu グラス・ウォークス) 一般的に使用し得べからしむべく極めて廉價にして且熔融硝子の腐蝕作用に對し大なる抵抗力を有する新規の耐火物を提供せんとする目的を以て半融酸化錫を主劑として構成をせしめたることを特徴とする耐火物。

廻轉爐 (14年特許公告第3095號, 公告14-7-5, 東京市秩父セメント株式會社) 透孔が熔融金屬を排出すべき位相に來たるときのみ自動的に開放せられ殘餘の位相に於ては自ら密閉せられて爐内に冷空氣が流入し或は火焰を噴出する虞れなく熔融金屬のみを自動的に抽出し得しめんとする目的を以て廻轉爐の熔融金屬集溜個所に於ける爐體壁に一個又は夫れ以上の透孔を穿設し該透孔を外部より開閉せしむる栓又は覆蓋を爐體に樞着せる擺動桿に取付け爐體の廻轉に伴ふ擺動桿の變位に依り熔融金屬排出位相に於て上記透孔を開放し他の位相に於ては閉塞状態に保持する様擺動桿を廻動し且つ一定位置に確保する誘導軌條を爐體の周圍に設けたることを特徴とする廻轉爐。

廻轉爐の二次空氣供給装置 (14年特許公告第3096號, 公告14-7-5, 東京市, 秩父セメント株式會社) 被處理物の存在せざる個所に於ける透孔を所要空氣量に適應する様開放し之れより適量の二次空氣を流入供給し得て燃料並に發生せる一酸化炭素を完全に燃焼し得ると共に被處理物が排出せられ或は被處理物に冷空氣が觸れて其の溫度を低下せしむる虞れ無く而も透孔の開閉を自動的に且確實に行ひ得しめんとする目的を以て二次空氣を供給すべき個所に於ける爐體壁に穿設したる透孔の開閉を司る開閉子を爐體外側に附設し該開閉子を釋放せるとき透孔を開放状態に保持し且溫度を調節し得る如くなすと共に爐體間の被處理物にて被覆せらるる位置に於ける透孔を閉塞すべく開閉子を作動せしむる軌條片を架設して成る廻轉爐の二次空氣供給装置。

純粹の溶液の形態にて礦石類より亞鉛を抽出する方法 (14年特許公告第3097號, 公告14-7-5, 關東州, フリッツ, ハンスギル) 簡單なる操作により最も有效且經濟的に純粹なる溶液の形態にて礦石類より亞鉛を回収せんとする目的を以て焙燒せる礦石類を導入せる硫黄や銅, 銀, 金, 鉛, 蒼鉛, カドミウム, アンモニー砒素, 錫, 鐵, ニッケル, コバルト等の如き礦石に隨伴する金屬の硫化物を形成するが如き量に於て濕潤せる硫化水素を以て處理し然る後一部硫化せる礦石を溶解せる硫化亞鉛を保持するに丁度充分なるが如き水素イオン濃度の稀酸類を以て處理することを特徴とする純粹の溶液の形態にて礦石類より亞鉛を抽出する方法。

高速度鋼附刃バイト鑄接劑 (14年特許公告第3098號, 公告14-7-5, 名古屋市, 陸軍大臣) 高速度鋼刃先の鑄接に當り高速度鋼の焼入後の硬度を良好ならしめ熔著部の機械的抗力を大ならしめ且焼入溫度直下に於て熔著を可能ならしめ同時に焼入せしむることを得べき使用方法簡單にして經濟的な等優秀なる性質を具備せる鑄接劑を提示せんとする目的を以て鐵 12~29%, マンガン 40~50%, 珪素 10~15%, モリブデン 0.5~2%, チタン 0.05~1%, 硼砂約 15%, 硼酸約 5% を主成分として含有せることを特徴とする高速度鋼附刃バイト鑄接劑。

アルミニウム又はアルミニウム合金の酸化被膜處理法 (14年特許公告第3099號, 公告14-7-5, 東京市, 理研アルマイト工業株式會社) アルミニウム又は其の合金の表面に豫め形成したる酸化被膜層を加工處理する際例へば漆液を塗裝し或は染料液にて染色する際漆又は染料等の塗着劑の密着力を増大せしめんとする目的を以てアルミニウム又はアルミニウム合金に所謂電氣化學的陽極處理を施して其の表面に形成せしめたる多孔性酸化被膜層上に柿澁汁を塗着せしむることを特徴とするアルミニウム又はアルミニウム合金の酸化被膜處理法。

特許拔萃

| 番 號 | 名 稱 | 特許權者 | 公告拔萃 |
|--------|-------------------------------------|------------------------------------|--------|
| 129826 | X線管用アノード製作方法 | 株式會社川西機械製作所 | ナ シ |
| 129838 | マグネシア含有原料物質の電熱的還元方法 | イー, ゲー, ファルベンインズストリー, アクチエンゲゼルシャフト | 第25年2號 |
| 129866 | 酸化鐵より海綿鐵を製造する方法 | 山 根 邦 道 | 〃 |
| 129869 | 擬金粉製造方法 | 内 田 祐 直 | ナ シ |
| 129877 | アルミニウム又は其の合金の防蝕處理方法 | 日本パーカライジング株式會社 | 第24年5號 |
| 129896 | 粘結劑製造法 | 佐 伯 四 郎 次 | ナ シ |
| 129907 | 炭素電極の燒成方法 | 高 柳 健 治 | 第25年2號 |
| 129908 | 高熱電氣爐の爐壁及爐底を構成する方法 | 高 柳 健 治 | 第25年2號 |
| 129998 | 銲 接 棒 | 南滿洲鐵道株式會社 | ナ シ |
| 130005 | 微粒炭製造法 | 吉 田 淺 次 郎 | ナ シ |
| 130029 | 材熱處理装置 | 株式會社芝浦製作所 | 第25年3號 |
| 130047 | 還元鐵並に粒鐵の製造方法 | 東京鋼材株式會社 | 第25年2號 |
| 130087 | マグネシウム及其合金の防蝕方法 | 古河電氣工業株式會社 | 第25年3號 |
| 130072 | 銅 合 金 | 日本火工株式會社 | 第25年2號 |
| 130092 | バルブ廢液より粘結劑製造法 | 旭電化工業株式會社 | ナ シ |
| 130093 | 熱處理に依る歪少く安定にして耐磨性大なるゲーヂ螺子商車等の製作方法 | 關口八重吉 外二名 | ナ シ |
| 130110 | 電極豫備燒成法 | 中 神 賢 一 | ナ シ |
| 130121 | 燒入硬化性, 燒戻硬化性又は自硬化性を有する超高硬度銅合金枝管連設方法 | 海 軍 大 臣 | 第25年3號 |
| 130122 | 小 笠 原 常 道 | 小 笠 原 常 道 | ナ シ |
| 130216 | 硫黄貧鐵處理法 | 長 谷 川 博 | 第25年3號 |
| 130227 | 高溫爐の裏裝を保護する方法 | 日本マグネシウム金屬株式會社 | 〃 |
| 130245 | 鍍中のタンゲステンの回収方法 | 三菱鑛業株式會社 | 〃 |
| 130251 | 金屬及金屬脫炭方法 | 松 川 達 夫 | 第25年2號 |
| 130255 | 急速可鍛鑄鐵管製造法 | 久 保 田 權 四 郎 | ナ シ |
| 130301 | 金鑄處理法 | 日本高周波重工業株式會社 | ナ シ |